

# 高齢者の自動車免許返納不要のまま 高齢者が原因の交通事故の削減に向けて

チーム名 緑 C1250786 亀井美幸

## A) 他チームの発表を聞いて

自チームと似ている課題「高齢者の事故を減らすには」と「免許返納後の生活を具体的に描く」について自分たちのチームにない解決策を提案し、参考になったのは、「2班のオムライス」と「45班のたんたん」であった。

「2班のオムライス」は、「高齢者の事故を減らすには」という課題に対して、道路を光らせる、または音によって運転者に注意を促すという指摘をしており、現実的に解決を目指す私たちにはない考えで参考になった。コストという課題はあるが、新しい取り組みとして導入してみても良いと思った。

「45班のたんたん」については、「免許返納後の生活を具体的に描く」という課題について、「返納したら二度と運転しない」ではなく、運転できるエリアや時間を限定する条件付き運転制度の導入、という考えが参考になった。私たちは、高齢者の交通事故削減のために免許返納を勧め、高齢者が運転をしないことを目指していた。しかし、この班の解決策を聞いて、高齢者が運転をし続けながら、交通事故削減を目指せると思った。

## B) 「これまでの授業を受け、地方都市における交通の問題を総合的に解決するためにはどうしたらよいか」について自分の意見を述べる。

自分たちのチームでは、高齢ドライバーによる交通事故が多発している問題の原因として、一時停止無視、スピード超過、巻き込み（目視確認なし）、ハンドルやブレーキの操作ミス、反射神経の衰え、突発的な発作や持病により、事故が起きてしまう可能性があるなどの、衰えによる不注意、長年の運転技術の過信による交通事故への軽視、老化による身体的要因を考えていたが、「2班のオムライス」と「45班のたんたん」の発表を踏まえて、免許返納のしにくさ故の自動車依存、わかりにくい道路、歩道が狭い、見通しが悪い、道路表記の見落としなどの道路環境要因、認知症による交通マナー・ルールの物忘れを追加する。

これらを踏まえると、課題は、自動車に依存しない移動手段の確保するためには「道路環境をよくするためには」「高齢者に、高齢者の交通事故の現状、交通ルールの正しい認識を知ってもらうためには」「運転できるエリアや時間を限定するなどの、新しい条件付き運転制度の導入を実現するには」の4つが追加される。

これらの課題を踏まえたビジョンとして、  
「高齢者の自動車依存を減らし、高齢者が原因の交通事故の削減」  
「高齢者の老化に合わせた道路環境改善、自治体での講義を開催」  
「運転できるエリアや時間を限定するなどの、新しい条件付き運転制度の導入を実現する」の3つを設定した。

チームで検討した際はビジョンを、高齢者の交通事故削減のために免許返納を勧めるために「自治体で高齢者の交通事故について講義をして現状を知ってもらう」「免許返納しても移動できるようにする」。また、免許返納しても移動できるようにするために「公共交通機関へアクセスしやすい環境をつくる」「移動販売ができるお店を増やす」「自動車以外の移動手段を増やす」としていたことから、道路を光らせる、または音によって運転しやすい道路環境の大幅改善「運転できるエリアや時間を限定するなどの、新しい条件付き運転制度の導入を実現するためのアイデア」の視点が追加されたことになる。

このビジョンを踏まえて解決策を考えると、高齢者の自動車依存を減らす政策については、「自動車以外の移動手段の確保するための返納後の生活を具体的に描けるような利用しやすい公共交通機関の設備を整えること」が考えられる。高齢者の老化に合わせた道路環境改善については、「道路を光らせる、または音によって運転しやすい道路環境をつくること」が考えられる。高齢者の老化に合わせた自治体での講義を開催については、「高齢者の交通事故の現状、交通ルールの再確認を高齢者に向けて自治体で講義をすること」が考えられる。運転できるエリアや時間を限定するなどの、新しい条件付き運転制度の導入を実現するに向けて、「何度もシュミレーションをして、時間をかけながら実現に向けてブラッシュアップしていくこと」が考えられる。

これらの実施により高齢者が自動車免許を所持しながら高齢者が原因の交通事故の削減が期待できる。

自チームの検討時に加えて、高齢者の自由を保ちながら交通事故削減の実現がより期待できるようになった。ただし、「コストとメンテナンス」「人手とアイデア」「時間」が必要なことが課題であり、「できる範囲の道路環境の改善」「手配できる人手の数」「運転制度の導入ためのブラッシュアップするための時間」を検討する必要がある。